

なづなケアプランセンター



困った事があると直ぐに長女に電話するので、長女が疲弊していた。両親が元気だった頃は長女との関係も良かったが、両親の出来ない事が増えていくにつれ相談できるのは長女だけになり、長女は頭では理解しても受け入れる事ができなくなつていったそうである。そこで、ケアマネの登場である。それぞれの話を繰り返し聞かせてもらう内に、両親からは「長女以外にも相談できる人が出来て良かった」と言ってもらい、長女からも「両親との関係が良くなつた」との言葉を頂いた。ケアマネとしてご褒美のような言葉である。

共生の里ヘルパーステーション



精神の病気で何度も入退院している利用者、体調の良い時には一緒に買い物に行って雑貨や服を見て回るのを楽しんでいました。しかし、ここ何年かは買い物の予定を立てると何故か体調が悪くなり、入院することが続きました。現在は退院して半年近く経ち「また一緒に家具や寝具を見に行きたい」と話してくれるようになりました。入院中には引っ越しがあり、家の環境が変わって戸惑っていたのがやっと前向きな気持ちになりました。今の良い状態を維持して、今度こそ一緒に買い物に行くことを実現したいと思っています。

誕生日に寄せて

高校時代からラグビーをしており、長身で肩の筋肉も隆々！足も速かったので点取り屋のポジションでした。国立大学に入学して教師を目指していましたが、経済的な理由で中退し、その後は臨時の教師として勤務しました。「先生は楽しかった」そうです。エアコンの営業職では常に成績NO1で全国を飛び回ったそうです。「俺の人生は波乱万丈やつたけど、楽しかったから人生に悔いはない」と言います。

